

2015年3月10日

第2弾は読者の  
半数が女性

## 別冊宝島「日本刀」シリーズ

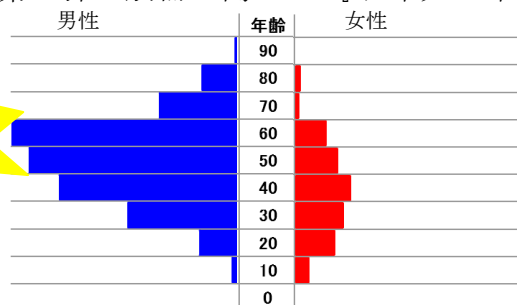
異例のシリーズ累計 32 万部を突破！

株式会社宝島社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:蓮見清一)が発行する、別冊宝島「日本刀」シリーズは、2015年3月10日(火)の重版をもって、シリーズ累計32万部を突破します。

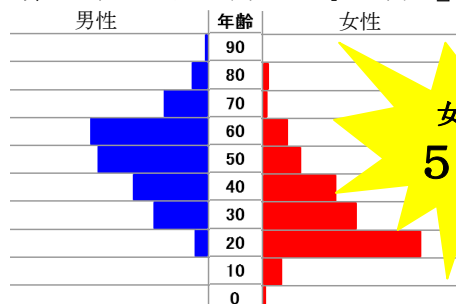
昨年1月に第1弾として別冊宝島2120『日本刀の本』を発売。『日本刀の本』は2000円～3000円の類書が多かったなか、多くの方に手に取っていただきやすいよう、仕様を中綴じの大判ビジュアルムックにし、低価格にしたことで、40～60代の男性を中心に異例の15万部となりました。第1弾が好評だったことから今年の1月に第2弾として別冊宝島2288『日本刀』を発売したところ、**第1弾は男性読者が80%であるのに対し、第2弾の読者は女性が半数を占め、うち38%は20～30代の女性です。**「歴女」ブームをはじめ、漫画の『ワンピース』『ナルト』にも「刀」は登場し、キャラクターを際立たせるツールとして表現されていることや、刀剣をイケメンに擬人化したオンラインゲーム『刀剣乱舞』のヒットなどにより、刀剣に興味を持つ女性が増えたことが要因だと考えられます。もともと男性を中心にヒットしていた「日本刀」シリーズですが、新規購入者として20～30代の女性を獲得したことがさらなる大ヒットに繋がったと考えられます。また本に限らず、日本各地で開催される刀の展示会へ本物の刀を一目見たいと足を運ぶ女性が増加しているという現象も起きています。

宝島社は今後も、企業理念である「人と社会を楽しく元気に」のもと、より多くの読者の方に喜んでいただけるコンテンツを企画・提供してまいります。

第1弾 別冊宝島2120『日本刀の本』

男性  
8割

第2弾 別冊宝島2288『日本刀』

女性が  
5割に！

『別冊宝島2288 日本刀』  
発売：2015年1月16日  
定価：本体800円＋税

別冊宝島「日本刀」  
シリーズ累計32万部突破！

## 別冊宝島2288『日本刀』の内容について

本誌では、日本刀を愛した高倉健さんの追悼記事、妖艶な輝きを放ち、時代を超えて日本人から愛される名刀92振りをビジュアルとともにわかりやすく紹介。江戸時代、『享保名物帳』にまとめられた、天下三作の「藤四郎」「正宗」「江義弘」の名刀や、愛称である「号」を持つ名物刀剣。そして、室町時代の刀の「映り」を7世紀ぶりに再現した、現代の刀匠・河内國平氏の刀神の技など、今も作られていることに外国人が驚くという現代刀までを紹介。また『利休にたずねよ』で直木賞を受賞した山本兼一氏の生前インタビューから、氏が語る日本刀の品格にも迫ります。